

## 障害児性教育実践に関する現職教員 OJT プログラムと実用ハンドブックの開発

- ◎加瀬 進（東京学芸大学特別支援科学講座）      ○蓮香美園（東京学芸大学附属特別支援学校）  
菅野 敦（東京学芸大学教育研究実践支援センター）      大関智子（東京学芸大学附属特別支援学校）  
山田有希子（東京学芸大学附属幼稚園）      朝倉隆司（東京学芸大学養護教育講座）

代表者連絡先：skase@u-gakugei.ac.jp

【キーワード】 障害児 性教育 対人関係と性 ワークシート OJT

### 1. はじめに

性や性教育については親が問題、教師が問題、社会が問題、子どもが問題、と「問題の犯人探し」に長い時間が費やされてきた。しかしながら子どもたちの「生と性」の現状は学習の機会と支援を求めて待ったなしの状況にあり、豊かな生と性の学びと育ちを子どもと親、親と教師、地域社会が協働して創りあげていくダイナミックな実践概念と捉えて推進する以外にない。そして、こうした協働の重要な「発信源」となるのは、やはり授業実践であるが、周知のように小規模なものも含めて障害児性教育実践が閉塞状況におかれてきた状況があることも否めない。そこで、改めて障害児性教育実践の蓄積を丁寧にとりまとめ、その再興・推進の一助となるような「障害児性教育ガイドブック（仮称）」の開発を企図した。

その開発にあたっては東京学芸大学を拠点とする日本障害児性教育研究会の数十年來にわたる資料・情報収集と東京学芸大学附属特別支援学校<くらし>における授業を通して蓄積してきた中学部～高等部の性教育教材・指導案開発の到達点（「対人関係と性」指導計画）を活用することから始めることとした。その最大の理由はリーダーの加瀬、サブリーダーの蓮香ともに、日本障害児性教育研究会の草創期から恩師、故大井清吉先生（東京学芸大学名誉教授）の薫陶を受け、今日の立場を得てきたからである。

### 2. 本プロジェクトの目的

- ①現場の教師がさほど時間をかけずに、担当している児童生徒の実態に合わせて修正・加工できる指導案・教材・ワークシートの三点セットからなる教材集（プロトタイプ）を開発する。
- ②教材集（プロトタイプ）を活用したワークショップ等の実施を通して、教材集の改訂を行うとともに、性教育実践の準備・実施・評価自体がOJTとなるようなプログラム／システムを開発する。

### 3. 本プロジェクトの実施内容

#### （1）障害児性教育教材集の開発

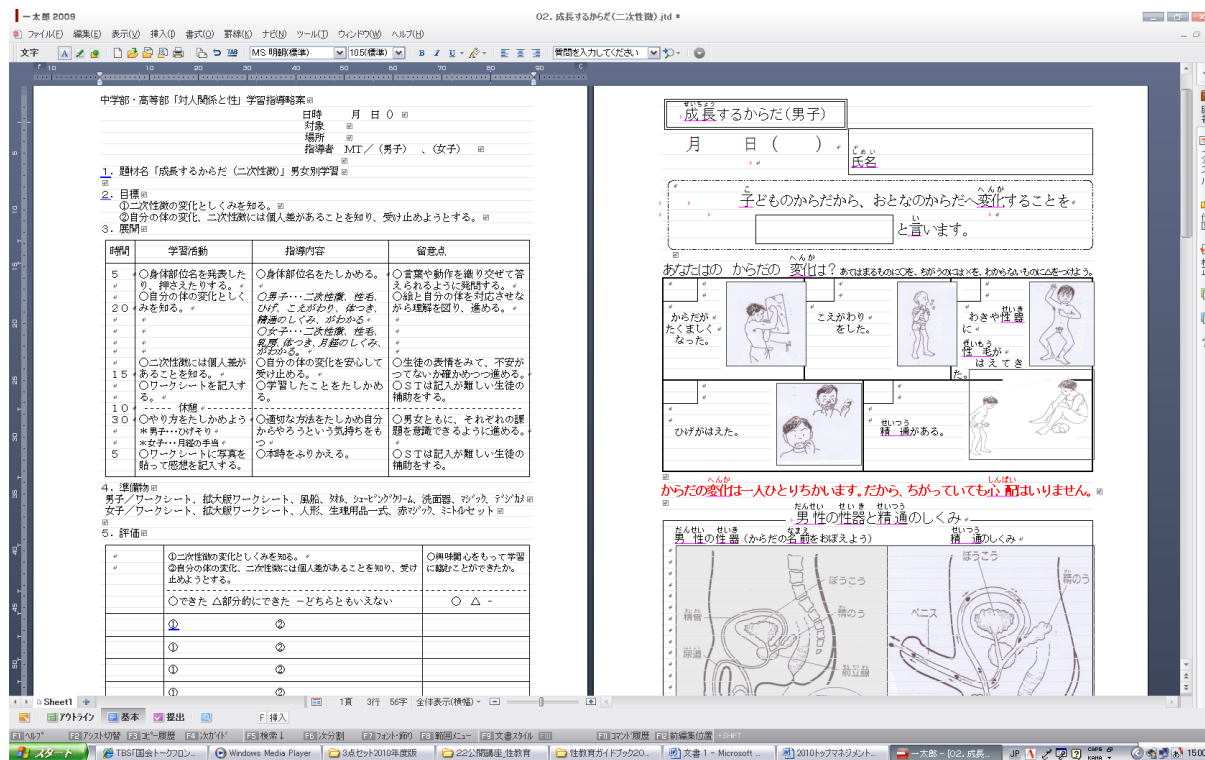
最終的には以下の20項目にまとめた。

#### 中学部・高等部「対人関係と性」指導計画案 2010年度版

1.成長するからだ（体のなまえ）／2.成長するからだ（二次性徴）／3.友だちのよいところ／4.対人関係のマナー／5.変な人についていかない／6.人との距離の取り方／7.プライベートとパブリックの区別／8.人の一生（ライフサイクルとこれからの進路）／9.好きな人ができたら／10.いろいろな社会的トラブル／11.自分を見つめる／12.好きな人とデートするには／13.男女交際から結婚／14.いろいろなくらし方／15.生命誕生のしくみ①（性交・妊娠・出産）／16.生命誕生のしくみ②（妊娠・出産／避妊）／17.性行為感染症・エイズ／18.親になるということ／19.冠婚葬祭／20.おしゃれ

教材集にはそれぞれ、指導略案と教材、評価にもつながるワークシートという三点セットを配し、手にした教員が写真・イラスト等を入れ替えられるよう一太郎バージョンで作成した。

### 例示：【指導案・教材・ワークシート／成長するからだ(男子)】



### (2) OJT プログラム／システムの開発

(1) で示した教材集は長年の実践に裏打ちされた蓄積の集大成であり、新規の開発と言うよりは集約と整理であったが、問題はこうした教材集を、附属特別支援学校とは異なる条件下で、多様な児童生徒に汎用できるようにする教員の OJT プログラム／システムの開発であった。現状では性教育実践のためだけに研修時間を確保することは非常に難しい。そこで、このガイドブックを手にし、指導略案やワークシートを作成し、不明な部分については我々に問い合わせさせて頂くという方法で、一定の効果が得られるかどうかを検証しようとした。そのために、まず①日頃から寄せられる質問を14項目にまとめて、我々なりのスタンスで視点を整理した【授業づくりにむけて】Q&A>、②教材集20項目の指導計画案に対応した【授業づくりへの手がかり】、③我々や導入校が個々の教員によるガイドブックの使用感を把握するフィードバックシート、④よくある保護者の質問に対する回答マニュアル案、の四点を作成した。紙面の都合上、以下に①と②の一部を例示しておく。

### 例示【授業づくりにむけて】Q&A

Q 6. 授業の前にまず実態把握を、と思うが、実態把握をする上でのポイントになることは？

A 6. 二次性徴の発現状況と性に対する興味・関心を示す行動を丁寧に把握することが重要です。例えば、二次性徴について正しい知識をもち、自分の身体の変化を適切に受け止められるようにするためには、生徒にとって、早すぎればイメージがもてず理解できないままに終わったり、かえって不安になったりすることもあります。また遅すぎること、自分の身体の変化に違和感を持ち続けたり、本

人の不安が色々な姿になってあらわれることがあります。例えば、違和感から性毛を抜き続けたり、精通が理解できず「おしっこ」の病気になったと思っていたり等、その姿は生徒により実に多様です。

また、次のサンプルのように、男女別に簡単な項目を立て、家庭での様子をアンケートで実態把握するのもよいでしょう。その際には、○印のように保護者が気になっていることや、心配していることを自由に記入できる設問を用意することも家庭との連携を図っていく上で大切と考えます。

いずれにしても、実態把握を細やかにすることに気を取られて、それぞれの生徒と所属する学級集団等にとっての適切な時期を逸してしまったり、実態把握と問題行動や発育段階を個別に数え上げて、個人差ばかりを浮き彫りにしてしまうに留まり、授業に繋がらないということのないようにしたいものです。

### 青春度チェック

<男子用>

氏名 \_\_\_\_\_



身体も心も大人に向かって伸びていく大切な時期です。一人一人が、「すてきな男性」へとステップアップしていくように、保護者の方から見た生徒たちの様子をお聞かせ頂いて、今後の指導に生かしていきたいと考えています。ご協力よろしくお願ひします。

質問	回答	家での様子を簡単に記入下さい
1 家でお子さんが一人になれる時間や場所はありますか？	はい いいえ	
2 ご家族の接し方は年齢相応の接し方ですか？	はい いいえ	
3 本人の寝室はどのようになっていますか？	はい いいえ	
4 テレビ番組等のラブシーン等に関心を持っていますか？	はい いいえ	
5 好きな異性の話や、性に関して、ご家庭で話題になることがありますか？	はい いいえ	
6 入浴時に、きれいに洗えていますか？	はい いいえ	
7 性器（恥垢）も、きれいに洗えていますか？	はい いいえ	
8 精通はありましたか？	はい いいえ	「はい」の方はいつからですか？
9 精通について本人は学習したことがありますか？	はい いいえ	
10 マスターベーションをしているようですか？	はい いいえ	
11 マスターベーション等で下着等を汚すことはありますか？	はい いいえ	
12 1で「はい」と答えた方で、汚れ物の始末は自分でできていますか？	はい いいえ	
13 ひげは生えていますか？	はい いいえ	「はい」の方はいつからですか？
14 13で「はい」と答えた方で、ひげ剃りは自分でできていますか？	はい いいえ	
15 青年期のお子さんの性に関する <del>こと</del> で気になることがありましたら記入下さい。	はい いいえ	

### 青春度チェック

<女子用>

氏名 \_\_\_\_\_



青春まった中の高校生。身体も心も大人に向かって伸びていく大切な時期です。一人一人が、「すてきな女性」「すてきな男性」へとステップアップしていくように、保護者の方から見た生徒たちの青春度をお聞かせ頂いて、今年度の授業等に生かしていきたいと考えています。ご協力よろしくお願ひします。

質問	回答	家での様子を簡単に記入下さい
1 家でお子さんが一人になれる時間や場所はありますか？	はい いいえ	
2 ご家族の接し方は年齢相応の接し方ですか？	はい いいえ	
3 本人の寝室はどのようになっていますか？	はい いいえ	
4 テレビ番組等のラブシーン等に関心を持っていますか？	はい いいえ	
5 好きな異性の話や、性に関して、ご家庭で話題になることがありますか？	はい いいえ	
6 掛せつ後の拭き方は、前から後ろへと拭き取られていますか？	はい いいえ	
7 入浴時に性器も含め、きれいに洗えていますか？	はい いいえ	
8 初経はありましたか？	はい いいえ	「はい」の方はいつからですか？
9 9～14は「はい」の方のみご記入下さい。月経の開始、終了を自分で判断できますか？	はい いいえ	
10 生理用品は一人で管理できていますか？（生理用品の補充・下着の洗濯等も含みます）	はい いいえ	
11 トイレでのマナーを守って手当て一人でできますか？	はい いいえ	
12 月経中や前後の随伴症状はありますか？	はい いいえ	「はい」の方はどんな様子ですか？
13 月経の記録を付けていますか？	はい いいえ	
14 次の月経を予測して準備をしたり等、月経の自己管理はできていますか？	はい いいえ	
15 青年期のお子さんの性に関する <del>こと</del> で気になることがありましたら記入下さい。	はい いいえ	

## 例示【授業づくりへの手がかり】

### 6. 人との距離のとり方

豊かな対人関係を育むためには、人との距離のとり方を学ぶことは大切なことです。しかし、日常生活の中で、人との距離のとり方で課題となる児童生徒は少なくありません。好きな人に近づきすぎたり、相手が嫌だと思ふ距離まで近づいて話をしたりする等、いろいろなことがあります。そういう日常的な場面を視覚的に提示して、不適切な距離、適切な距離のとり方を学ぶことで人との接し方のマナーを意識していけるようにしていきたいものです。

視覚的な提示の仕方は、よい場面、悪い場面を提示して○・×で考える場面を設定します。生徒に応じて、悪い理由なども発表できるようにできるとよいでしょう。用意する視覚的な提示教材については、課

題になっている場面だけでなく、普段、できている場面も提示して再確認できるように展開することも大切です。課題となっている場面や日常的に意識してほしい場面については、ワークシートで取りあげ、ポートフォリオとして残しておくことにより、振り返りができるようにして、個々の定着を図っていきけるよう工夫するとよいでしょう。

ロールプレイでは、生徒がよいモデルを実際にやってみて、認めて、賞賛される活動を取り入れることが効果的です。また、ビデオフィードバック等を行い、生徒が実際の姿を確認できるようにするのもよいでしょう。

---

## (2) OJT プログラム／システムの検証

平成 22 年度東京学芸大学公開講座の一環として「障害児性教育ワークショップ：＜できる、使える＞教材づくり（知的障害マナー編）」を開催し、「指導計画案 6：人との距離の取り方」を題材に、4名の現職教員、1名の大学院生を迎えて、実際にミニ講義・教材づくり・プレゼンテーション・質疑応答・ワークショップ及び教材集の評価を行った。講師及び協働で教材づくりに当たったのは本プロジェクト及び日本障害児性教育研究会のメンバー7名である。参加者の評価は少人数でもあり、統計的に検証出来るわけではないが、5名全員から教材集の有用性と直接・間接に不明な点を相談できるネットワークへの期待が語られた。

本報告書執筆現在においても、上記参加者以外に、モニターとして授業に取り組つつある教員が全国に 6名ほどいる。数名からフィードバックシートが届いており、いずれも自ら担当する児童生徒の実態に合わせて内容をチョイスし、利用の手引きを参考にしながら学校内で話し合いも始まっているといった肯定的評価を得つつある。

## 4. 本プロジェクトの成果と課題

「三点セット」の教材集について言えば、毎回の授業におけるワークシートを用いた学習のまとめに 1つの特徴がある。そのねらいの一つは、難しいと言われ続けてきた「保護者とのコンセンサス」「教員間におけるコンセンサス」形成であった。即ち本人が学習した内容について自己評価を行い、本人の学習経過に対し教員も評価を行うこととし、このワークシートを持ち帰ることによって保護者とコンセンサスを得るというものである。また、授業においてはワークシートに加えて教材が必要であるものの、学習のまとめとなるワークシートがあることで、教員間における指導内容のコンセンサスの図りやすさにも繋がる。

しかしながら、検討・検証すべき課題も少なくない。以下、数点を素描しつつ、本報告のまとめにかえさせて頂く。

- ワークシートや教材として少なからず用いられるのが写真であるが、容易に得られる反面、対象児童生徒によっては背景情報が多すぎ、むしろイラストの方が望ましい場合も少なくない。性教育実践を促進しようという観点から今回は教師の負担軽減を優先したため写真中心となったが、この点については今後、ていねいな検証が求められるところである。
- 東京学芸大学附属特別支援学校の教科「くらし」の中で主として取り組まれてきた実践がベースであり、「知識」を獲得するところに主眼がある。従って、その獲得が行動、即ち日常生活にどのように活かされていくか、という評価や、どのように行動化することができるか、という点に関するガイドブック開発がもう一つの大きな課題である。
- ガイドブックの普及と OJT を支えるスーパービジョン体制の構築も課題として顕在化してきた。今回の取り組みを通して、メール等によるケース相談が一時期増えたが、対象となる児童生徒が見えない中での相談には限界もある。この点をクリアしなければガイドブック丸投げとなりかねない。昨今指摘される e-learning システムの教員 OJT システムへの導入と併せて検討したい。